

既存老人介護施設のユニットケア改修、改築に関する研究

研究目的

既存老人介護施設は、平成14年度に示された国の方針により、小規模生活単位型（ユニットケア）、個室中心とするように求められていますが、多くの施設では未だ従来型のままの運営方式をとっています。老人介護施設は昭和50年代に整備されたところが多く、建物の改修、更新の時期が来ているため、改修を機にユニットケア型の施設への転換が必要となっています。

本研究では既存の老人介護施設について、ユニットケアへの転換をめざして、入居者の居住環境を確保し管理、運営のしやすい施設への改修、改築の計画手法を検討することを目的としています。

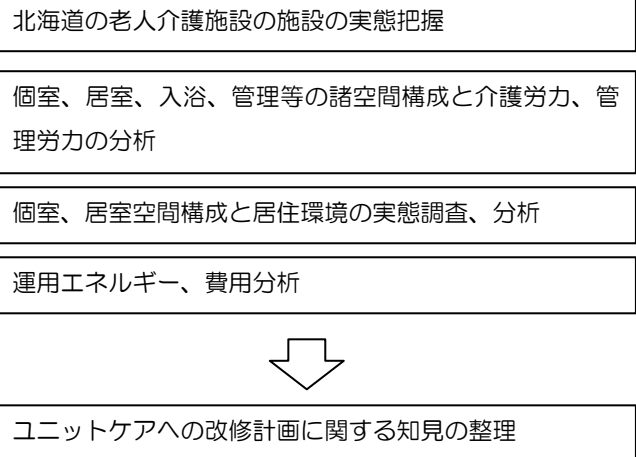


図1 研究フロー

研究概要

老人介護施設のユニットケア導入における課題を検討するため、個室や居室、入浴、管理等の諸空間構成と介護労力、管理労力の実態を調査し、分析を行います。また、個室、居室の空間構成と居住環境の実態を調査し、分析を行います。これらの調査・分析に基づき、具体的な施設を念頭に老人介護施設の改修方法について検討します。

今年度は、既存ユニットケア施設の調査、道内老人介護施設のユニットケア化の課題把握、および老人福祉施設において介護者の介護行動の調査と施設内の環境調査などを実施しました。

	居室1	居室2	居室3	居室4	居室5	居室6	居室7	ロビー	ホール	玄関	事務室
居室1	1	5	1				1	1	1	2	
居室2	2		1	1							
居室3		1		1							
居室4					2		1			2	
居室5				2		1	2	1	1		
居室6	1				1		1	1			
居室7	1		1		1	3		3			
ロビー	2				2	1	4				
ホール	3	1			3	1	2	1	1		
玄関										1	
事務室											

図2 介護作業と空間移動の関連表
(表側の部屋から表頭の部屋への移動回数)

研究の成果

H22年度は介護者の介護行動調査を基に介護行動と平面計画の関係分析手法の検討、エネルギー使用調査、環境測定を行いました。環境測定については継続中です。H23年度は、既存施設の改修時の計画手法、環境形成手法について取りまとめます。